

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	発達支援BASEぽけっと		
○保護者評価実施期間	2024年12月15日		~ 2025年3月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2024年12月15日		~ 2025年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い空間を活用した運動療育により十分な運動量を確保しつつ、プログラムとして他の児童やスタッフと交流・協力しながら運動できるよう支援を行っている。	集団活動において、子ども同士が協力し合って活動できるよう工夫している。	コロナ禍も過ぎ、外部での活動を通じて利用児童以外の大人や同世代の子どもたちとの交流を図っていく。
2	音楽療法士による専門的なプログラムの提供により、音楽を通した身体活動、聴覚刺激、コミュニケーションなどの多角的な効果が期待される。	パーティーや場の工夫により、個別の活動の際落ち着いて集中した活動となるよう配慮している。活動量の多いプログラムや遊びを取り入れ、各人の持つ活動エネルギーを消費し、満足感の出るよう配慮している。	適切な構造化を行い、各場面に適した活動環境を提供していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切な場の構造化ができていない。	思い切った構造化を図るための予算措置が取れていない。	運営主体に対して積極的に予算要求し、利用児童の特性等に即した構造化や場の工夫(設定)を更に進めていく必要がある。
2	多機能型事業所として、児童発達支援事業部門の利用登録が少ない。	児童発達支援事業で掲げる、発育発達段階に応じた適切な療育支援(身辺自立を含めた自立活動)が利用者(保護者)からすると魅力に欠ける部分がある。	支援プログラムや構造化を含めた支援環境の整備を早急に行い、利用者(保護者)にとって魅力のある事業所づくりに努めていく必要がある。
3			